

SS 研教育環境フォーラム 2017

「学習者と教授者を支える教育環境 -LMS の今後を考える-」

～ SS 研会員に限らず、どなたでもご参加いただけます ～

- 日時：2017年8月28日(月) フォーラム 13:30～17:40 (受付 13:00～) / 懇親会 17:50～19:00
- 場所：富士通株式会社 本社 6階 プレゼンテーションルーム [東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター]
- 開催趣旨

従来の講義と試験を中心とした知識伝達型の授業から、能動的学習、反転授業、ピアインストラクションなどを活用した授業へと、教育観や教育手法が転換しつつある。これらの新しい教育に適し、効率的で効果的な授業実施を支えるためには、ICT を活用して学習者のみならず教授者をも効果的に支えることが求められる。

大学教育での ICT の利用において LMS(学習管理システム)はかなり普及してきており、その活用が期待される。しかしながら、その内訳としては資料配布などでの利用に留まることも少なくない。LMS を活用する上での課題としては、能動的学習などでの学生の活動プロセスの支援、学習成果のアセスメント、多くの受講生と対峙する教員の LMS の利用効率の向上などが挙げられる。

このような背景の中、教育環境分科会では、年間のテーマを「学習者と教授者を支える教育環境」とした。本フォーラムではサブテーマを「LMS の今後を考える」として、能動的な学習スキルの育成のための LMS や学習成果の評価方法などを取り上げる。

- プログラム (予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承下さい。)

※当日は講演概要のみを配付します。詳細資料はWeb サイトからダウンロードして下さい。

-敬称略-

13:00～	受付
	[司会] 長瀧 寛之(岡山大学)
13:30～13:35	開会趣旨説明 喜多 一(京都大学)
13:35～14:35 講演 50分 Q&A 10分	<p>[1] MOOC における学習評価に関して -学習者による相互評価方式を中心に-</p> <p>福原 美三(日本オープンオンライン教育推進協議会)</p> <p>2012年に米国で立ち上がったMOOCは今や全世界に広がり、受講者数は7000万人に達すると言われている。日本でも2014年以降MOOC講座の配信が始まり、現在までに約200講座が開講し、延73万人以上が受講している。MOOCの特徴の一つに学習機会の無償提供に加えて、学習者間相互の学び合いの要素があげられる。学習者のスキル習得確認のための課題についても選択式課題の自動採点に加え、論述式課題の学習者による相互採点が行われている。ここではその背景と効果について述べる。</p>
14:35～14:45	展示紹介 寺下 一欣(富士通)
14:45～15:00	休憩(15分)
15:00～16:00 講演 50分 Q&A 10分	<p>[2] キュレーション学修法を用いた能動的学修スキル育成の実践</p> <p>田名部 元成(横浜国立大学)</p> <p>これからの時代は、環境や状況の変化に柔軟に適応し、既知の知識を更新しつつ、新しい方法を生み出しながら、問題解決や価値創造を行うことが求められる。本講演では、このようなスキルを育成するための可能性のある手法としてのキュレーション学修法に焦点をあて、その背景となる考え方や関連する学習理論、学修支援システムの実装、および教育実践について紹介し、さらにキュレーション学修の視点からLMSの今後について述べる。</p>
16:00～16:15	休憩(15分)
16:15～17:35 80分	<p>[3] ワークショップ「先生って何してる？どうお手伝いすればいい？」</p> <p>話題提供/コーディネーター：喜多 一(京都大学)</p> <p>大学の科目は教室での授業と授業時間外の学習で構成されています。授業では教員は学生と顔を合せて講義をしたり、演習に取り組みせたりしています。このほか教員は授業の準備や、課題の採点などの活動をしており、学生も他科目も含めて予習や復習、課題への取り組みなどの授業時間外の学習を行っています。CMSは両者をつなぐ重要な情報システムですが、実際にCMSはどのような点で役立ち、どのような点で問題を抱えているのでしょうか。ここでは、教員が授業のためにやっている活動全般を捉えてCMSがそれをどのように支援できるのかを考えます。</p>
17:35～17:40	閉会挨拶 隅谷 孝洋(広島大)
17:40～17:50	休憩、懇親会準備(10分)
17:50～19:00	<p>懇親会 (会費 ¥500)</p> <p>お飲物とおつまみの簡易パーティです。お気軽にご参加下さい。会費は当日受付にて申し受けます。</p>

(裏面に続く)

■ アクセス

汐留シティセンターのオフィスロビーから低層階用エレベーターで直接 6 階会場(User Community Salon 内プレゼンテーションルーム)へお越し下さい。1階の富士通総合受付での受付は不要です。

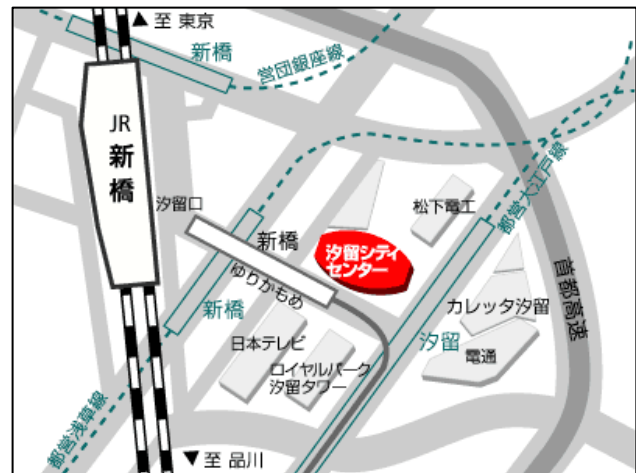
<http://jp.fujitsu.com/facilities/shiodome/>

<<電車でのアクセス>>

- ・ JR 新橋駅
汐留口(地下1階)から徒歩3分
- ・ 東京メトロ 銀座線 新橋駅
出口4 (地下1階) から徒歩3分
- ・ 都営地下鉄 浅草線 新橋駅
汐留方面出口 (地下1階)から徒歩2分
- ・ 都営地下鉄 大江戸線 汐留駅
JR・ゆりかもめ新橋駅方面出口(地下2階)から徒歩1分
- ・ 新交通ゆりかもめ 新橋駅
出口1Dから徒歩1分

<<羽田空港から新橋駅までのアクセス>>

- ・ 東京モノレールと JR 山手線
羽田空港 から 浜松町 経由 新橋駅 (所要時間約 30 分)
- ・ 京浜急行と都営浅草線 (直通電車)
羽田空港 から 都営浅草線新橋駅 (所要時間約 30 分)



■ ご参加について

- 参加対象 : オープン開催(SS 研会員機関以外の方でも、ご参加いただけます)
- 参加費 : 無料。ただし、懇親会については 会費 ¥500 を申し受けます。
(懇親会は ICT ベンダ関係者の参加をお断りする場合があります)

■ 詳細・お申し込み

SS 研 Web サイトからお申し込み下さい。(7 月下旬から受付開始予定)

<http://www.sskn.gr.jp/MAINSITE/>



【お問合せ先】サイエンティフィック・システム研究会(SS 研) 事務局

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

富士通(株) カスタマーリレーション統括部内

TEL : 03-6252-2582(直通)

Email:office@sskn.gr.jp

URL <http://www.sskn.gr.jp/MAINSITE/>